

目次

序

第1部 漢学振興運動から学院創設へ

第1章 大東文化学院初代総長・第三代会頭 平沼騏一郎

- 1 平沼の思想形成と司法省における台頭 18
- 2 「皇学」思想による高等教育機関の立ち上げ 22
- 3 大東文化学院「学科課程」の決定過程 29
- 4 平沼と大東文化学院 32

第2章 大東文化協会の初代会頭 大木遠吉

- 1 国学・漢学との出会い 38
- 2 「国体」と「立憲的君主政治」 42
- 3 大東文化協会・大東文化学院とのかかわり 50

第3章 大東文化学院創設の立役者・大東文化協会副会頭 木下成太郎…………… 63

- 1 「木下伝」と高等教育振興への寄与 64
- 2 大東文化協会の創設 66
- 3 大東文化学院の創設と木下の果たした役割 71
- 4 木下と高等教育機関 76

第4章 大東文化協会初代副会頭・第四代会頭 小川平吉…………… 83

- 1 中国文化への関心と法律家・政治家としての生涯 84
- 2 小川平吉と大東文化協会の創設 89
- 3 大東文化学院同盟休校と小川平吉 92

第5章 第二代総長 井上哲次郎…………… 101

- 1 東西哲学界の巨星 102
- 2 大東文化学院第二代総長への就任 105
- 3 大東文化学院改革案 107
- 4 メディアの風説 115
- 5 大東文化学院における学問観の揺れ 117

コラム① 大東文化協会評議員として漢学振興に尽力 渋沢栄一 122

第Ⅱ部 大東文化学院の学者・研究者

第6章 『大漢和辞典』編纂事業と大東生の漢学力 諸橋轍次と「大東漢学」……………131

- 1 諸橋轍次と大東文化学院 131
- 2 『大漢和辞典』編纂の開始と大東生の「漢学力」 137
- 3 大東生たちの知と粹を結集 141

第7章 碩学たちによる最高峰の漢学教育 「官学派」教員と前川三郎……………153

- 1 「官学派」教員の招聘 153
- 2 高等教育機関における前川三郎 156
- 3 大東文化学院教授就任の経緯 157
- 4 「官学派」教員たちの「初年度」 161
- 5 教員構成の変更 165
- 6 前川三郎の大東文化学院退職 172

第8章 「私塾型」近代高等教育機関を目指して 「私学派」教員たちの学問観……………177

- 1 「私学派」の人びと 177
- 2 「私学派」教員と漢学者養成構想 186
- 3 大東文化学院の学科目変更 189

- 4 大東文化学院の学則変更 195
 5 大東文化学院と無窮会 197

第9章 弟・駿一郎とともに大東文化学院に貢献 平沼淑郎……………203

- 1 『明治日報』記者から教育界へ 204
 2 大阪高商から早稲田へ 212
 3 淑郎の社会および学会活動と大東文化学院での講義 217
 4 経済史研究者としての淑郎とその晩年 222

第10章 開学期に哲学・論理学・心理学を講じた北一輝の実弟 北吟吉……………227

- 1 佐渡の知的風土と北兄弟 228
 2 中学英語教師を経て早大文学科講師に 231
 3 四年間の欧米留学から帰り大東文化学院教授に 234
 4 大東文化協会・学院教授辞任後は新しい美術学校の経営に乗り出す 242
 5 多摩帝国美術学校設立後は衆議院議員に当選 248
 コラム② 大東文化学院を支えた二人の名誉総長・名誉学長 鵜澤總明と土屋久泰 254

第Ⅲ部 大東文化学院の教育

第11章 大東文化学院で「教育学」を担当 吉田熊次 小松武治……………263

- 1 教育者・吉田熊次の生涯について 264
- 2 教育者・小松武治の生涯について 273

第12章 学院での中国事情の紹介者 内堀維文 法本義弘……………287

- 1 大東文化学院の「大陸」志向 288
- 2 学院生らの大陸雄飛の動き 296

第13章 学院生らの心身鍛練を指導・支援 中山博道 鈴木篤三郎……………305

- 1 学院生らの運動競技のはじまり 306
 - 2 学院生らの心身鍛練の継続と変化 312
- コラム③ 漢学の専門家集団 大東文化学院高等科一期生の人びと 324

人名索引 i